

令和6年度授業改善推進プランの評価

○成果
・持久走大会や駅伝の取組に力を入れることで、児童の体力向上につながり、体力テストでも20mシャトルランの記録が大幅に伸びている。
・ICTを活用して学習に取り組むことで、活動時間を十分に確保したり、各児童の実態に合った活動につながったりすることができている。
●課題
・体力テストのデータから・瞬発力・スピード・筋力(力強さ)について課題が見られるので、体力向上の働きかけが必要である。
・体力テストの結果を受けて、運動能力の向上には、休み時間の活動が与える影響が大きく、運動が苦手な児童がすすんで体を動かすようなアプローチを考えていく必要がある。

実態

○令和7年度体力テストデータより
全国平均と比較して、ほとんどの学年が「反復横跳び」「立ち幅跳び」の記録が低位にある。「ソフトボール投げ」は、全学年の男子が全国以上、女子が全国平均以下という結果になっている。前年度と比較すると「20mシャトルラン」の記録が伸びており、持久走大会や駅伝大会の取組が効果的であったと考えられる。
○ICT機器の活用を通して、友達と協力して学習を進めたり、動画を撮影して動きを認知したりと協働的な学びや個別最適な学びを充実させている。
○早寝早起き朝ごはん月間の結果から、睡眠時間の確保を意識して生活する児童が増えてきている。一方、学年問わず、就寝時刻が遅く睡眠時間が短い傾向の児童も一定数見受けられる。

指導上の課題

① 運動に対する意欲が高い児童と低い児童の二極化を解消する。
② 学び合いを活性化させ、児童の資質・能力を高める。
③ 運動の日常化と健康を意識した生活習慣の構築を図り、児童の運動能力や体力を向上させる。

令和7年度の具体的授業改善

低学年	中学年	高学年
・児童に学習に対する見通しをもたせることができるように、単元の始めにオリエンテーションを行い、学習の進め方や約束などを確認する。	・児童に学習に対する見通しをもたせることができるように、単元の始めにオリエンテーションを行い、学習の進め方や約束などを確認する。	・児童に学習に対する見通しをもたせることができるように、単元の始めにオリエンテーションを行い、学習の進め方や約束などを確認する。
・実態に合わせて学習カードを活用	・学習カードを活用し、めあての意	・学習カードを活用し、自分やチー

用し、めあての意識をもたせたり、身振りや手ぶりを交えて振り返りをさせたりすることで、本時の成果と次時の課題を明確にし、児童の学習意欲の継続を図る。 ・身に付けさせたい動き、運動感覚を具体的・系統的に示し、スモールステップで発達段階に応じて指導する。各領域の運動技能の要点をまとめた資料を整理し、指導力向上を図る。 ・小集団で互いに考えたことを伝え合いながら運動することで、運動の楽しさや友達と一緒に運動するよさに気付いたり、学習に対する意欲が高まったりすることに気付かせ、学びが深まっていくことを実感させる。 ・学び合いを促進するための学習資料を充実させたり、ICT 機器を活用したりして児童が主体的に学び合える授業づくりを行う。 ・なわとび、持久走など継続して取り組むことができる運動を授業や体育朝会、体育的活動で紹介、実践させる。また、休み時間や放課後に実施できる運動を体育朝会で紹介する。 ・年間 2 回早寝早起き朝ごはんカードを配布し、保護者と共通理解を図り、食育・健康教育推進を啓発する。	識をもたせたり、振り返りをさせたりすることで、本時の成果と次時の課題を明確にし、児童の学習意欲の継続を図る。 ・身に付けさせたい動き、運動感覚を具体的・系統的に示し、スモールステップで発達段階に応じて指導する。各領域の運動技能の要点をまとめた資料を整理し、指導力向上を図る。 ・小集団で互いに考えたことを伝え合いながら運動したり、ICT を活用したりすることで、個人の練習だけでは分からなかった点に気付いたり、学習に対する意欲が高まったりすることに気付かせ、学びが深まっていくことを実感させる。 ・学び合いを促進するための学習資料を充実させたり、ICT 機器を活用したりして児童が主体的に学び合える授業づくりを行う。 ・なわとび、持久走など継続して取り組むことができる運動を授業や体育朝会、体育的活動で紹介、実践させる。また、休み時間や放課後に実施できる運動を体育朝会で紹介する。 ・年間 2 回早寝早起き朝ごはんカードを配布し、保護者と共通理解を図り、食育・健康教育推進を啓発する。 ・普段の生活を振り返り、健康な生活や体の発育等について課題を見付け、その解決を目指した活動を行う。	ムの能力に合っためあてをもたせたり、振り返りをさせたりすることで、本時の成果と次時の課題を明確にし、児童の学習意欲の継続を図る。 ・身に付けさせたい動き、運動感覚を具体的・系統的に示し、スモールステップで発達段階に応じて指導する。各領域の運動技能の要点をまとめた資料を整理し、指導力向上を図る。 ・小集団で互いに考えたことを伝え合いながら運動したり、ICT を活用したりすることで、個人の練習だけでは分からなかった点に気付いたり、学習に対する意欲が高まったりすることに気付かせ、学びが深まっていくことを実感させる。 ・学び合いを促進するための学習資料を充実させたり、ICT 機器を活用したりして児童が主体的に学び合える授業づくりを行う。 ・なわとび、持久走など継続して取り組むことができる運動を授業や体育朝会、体育的活動で紹介、実践させる。また、休み時間や放課後に実施できる運動を体育朝会で紹介する。 ・大田区駅伝大会を活用した取り組みを高学年児童全員で行う。 ・年間 2 回早寝早起き朝ごはんカードを配布し、保護者と共通理解を図り、食育・健康教育推進を啓発する。 ・普段の生活を振り返り、体験学習を通して、心の健康やけがの防止等について課題を見付け、その解決を目指した活動を行う。
--	--	--

・ 体力テストの結果を個人カルテにまとめ、実施の前後に見直させることで、児童に具体的な目標を持たせ、体力向上の取り組みへの関心意欲を引き出す。	・ 体力テストの結果を個人カルテにまとめ、実施の前後に見直させることで、児童に具体的な目標を持たせ、体力向上の取り組みへの関心意欲を引き出す。	・ 体力テストの結果を個人カルテにまとめ、実施の前後に見直させることで、児童に具体的な目標を持たせ、体力向上の取り組みへの関心意欲を引き出す。
---	---	---